

大塚1号墳 車塚古墳

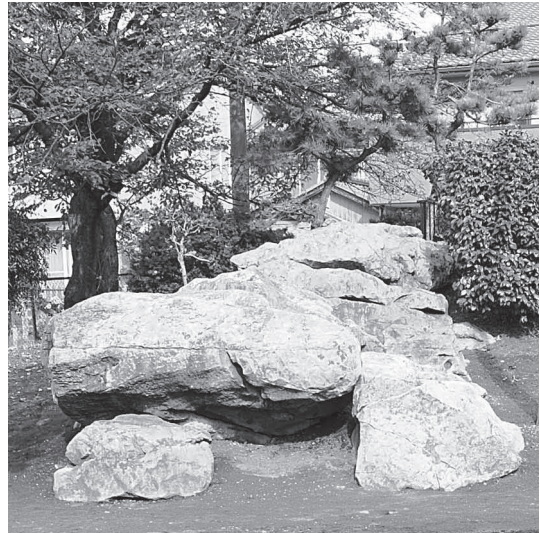
現地説明会資料



大塚1号墳 周壕の土器



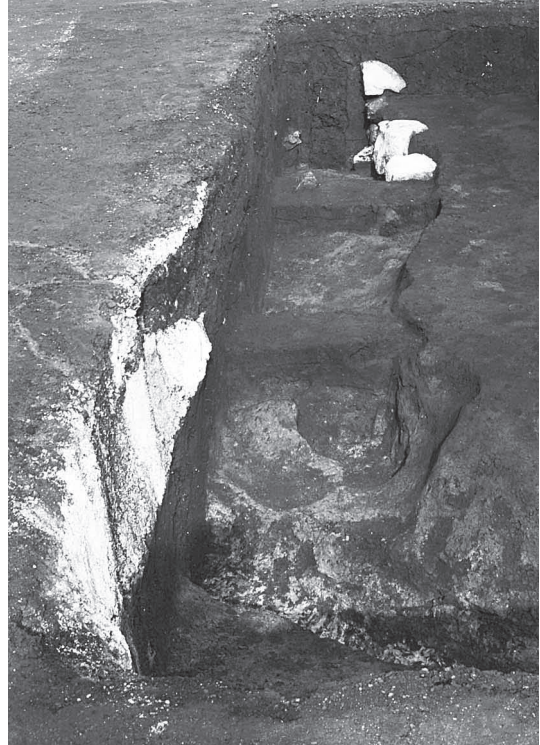
大塚1号墳 周壕の土器・胴部穿孔壺



車塚古墳 天井石のフズリナ化石



車塚古墳 前庭部石積



車塚古墳 石室と前庭部

おおつかいちごうふん 大塚1号墳

調査地 大垣市昼飯町字大塚
調査期間 平成20年10月8日
～同年12月上旬(予定)

調査面積 約29㎡

古墳の概要 総数6基(内4基は消滅・6号墳は所在地も不明)からなる大塚古墳群に含まれる大塚1号墳は、東隣の自治会館東側に所在する大塚2号墳(円墳・直径15.9m・高さ0.5m)と合わせて「二ツ塚古墳」とも呼ばれています。1号墳は直径15～18m、高さ2mの墳丘を持つ円墳で、墳頂部から採集された形象埴輪片などから5世紀代の古墳と考えられていました。なお、大塚1号墳を含めた周辺は古代の遺跡である東畑遺跡が広がっています。

昨年度の調査概要 昨年度は墳丘北側部分を中心に3カ所の調査区(トレンチ)を設定しました。この3カ所から、幅4m、深さ1.3mの周壕を確認しました。この壕は墳丘の周囲を方形に巡るものと想定されたため、1号墳は方墳であると考えました。しかし、この壕の中からは古墳に伴う遺物が出土せず、奈良時代の須恵器や鉄滓が多く出土しました。こうしたことから昨年度の調査では大塚1号墳の時期を決定することはできませんでした。また現状で認められる墳丘は、後世にかなりの改変を受けていることも判明しました。

今年度の調査概要 墳丘東側及び南側部分での周壕と墳丘の確認を目的としました。3カ所のトレンチは昨年度分を第1～3トレンチとし、今年度は第4～6トレンチとしました。

第4トレンチ 昨年度に確認した幅4m、深さ1.3mの周壕の続きを確認しました。周壕は昨年度に想定した位置よりも西よりで確認されました。溝底に近い部分からは、5世紀代のものと見られる完形の土師器壺2個体(胴部に1カ所穴が開けられています)と、須恵器はそうが出土しました。

第5トレンチ 現代の攪乱が著しいものの、墳丘の盛土の一部を確認することができました。

第6トレンチ 現代の攪乱が著しく、墳丘盛土も大きく削り取られていました。

まとめ

昨年度の調査結果と合わせると、大塚1号墳が一辺20m以上の方墳であると判断できます。また、周壕の底付近から出土した2つの土師器壺は周壕の底に置かれたもので、古墳の祭祀に伴うものと考えられます。大塚1号墳のつくられた時期は、出土遺物から5世紀代であると考えられます。



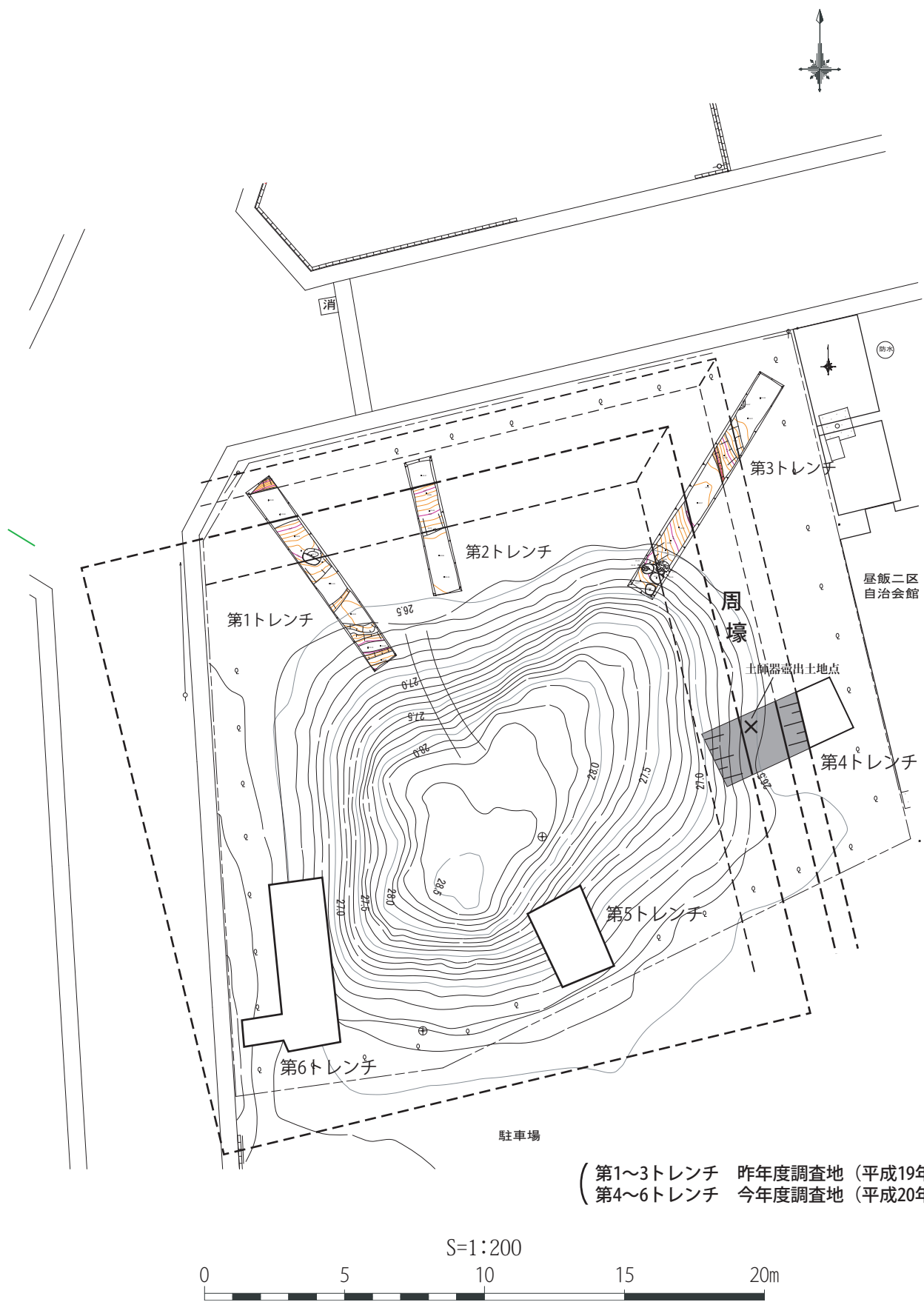
周辺の遺跡分布図 (1:5,000)



調査前のようす (南西から写す)



周壕と土器の出土したようす



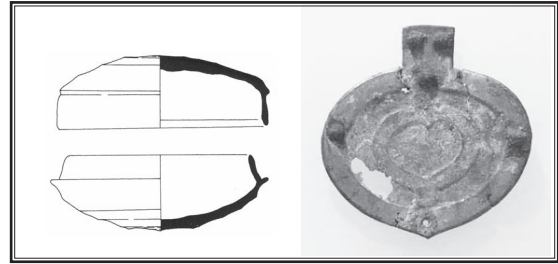
遺構平面図及び周壕推定図 (1:200)

くるまづかこふん
車塚古墳

調査地 大垣市昼飯町字牧野
調査期間 平成20年9月25日
～同年11月末(予定)
調査面積 約30㎡

古墳の概要

車塚古墳は昼飯町「車塚児童公園」内に、4枚の天井石を中心に横穴式石室が露出する古墳時代後期の古墳です。石室には金生山の石灰岩が用いられ、石室の長さは約8mにもなります。古墳の造られた時期、形や大きさ、周壕の有無などは不明で、明治年間の開墾に伴い馬具と須恵器が出土した記録のみが知られていました。



東京国立博物館に所蔵される「伝昼飯村字牧野車塚古墳」出土の須恵器(1:4)と馬具(杏葉)

各トレンチの概要 今回の調査では、古墳の範囲を調べる目的で、公園内に3カ所の調査区(トレンチ)を設定して発掘調査を行いました。なお石室内部の調査は行っていません。

第1トレンチでは古墳の周囲に巡らせた「周壕」と呼ばれる溝の一部を確認しました。また、近現代の攪乱により古墳の端部は破壊されていましたが、墳丘の一部を確認することができました。

第2トレンチでは古墳に関する遺構は確認できませんでした。古墳の基盤となる黄色土と黒色土の自然堆積層を確認しました。

第3トレンチからは「前庭部」と呼ばれる石室の一部が確認されましたが、その南側は攪乱により壊されていました。

前庭部は通路状に掘りくぼめられており、その側面には石灰岩とチャートの小型の石材が数段積まれていました。公園内に露出する石室への通路や入口のような役割をもつ部分と考えられます。

まとめ

車塚古墳は第1トレンチで確認された墳丘残存状況から、①墳丘規模が20m以上の大型古墳であることが判明しました。また②周囲に周壕をめぐらせていたこともわかりました。その幅は2.5m以上です。この他、石室前面に③小型の石材を側面に積んだ前庭部が確認されました。

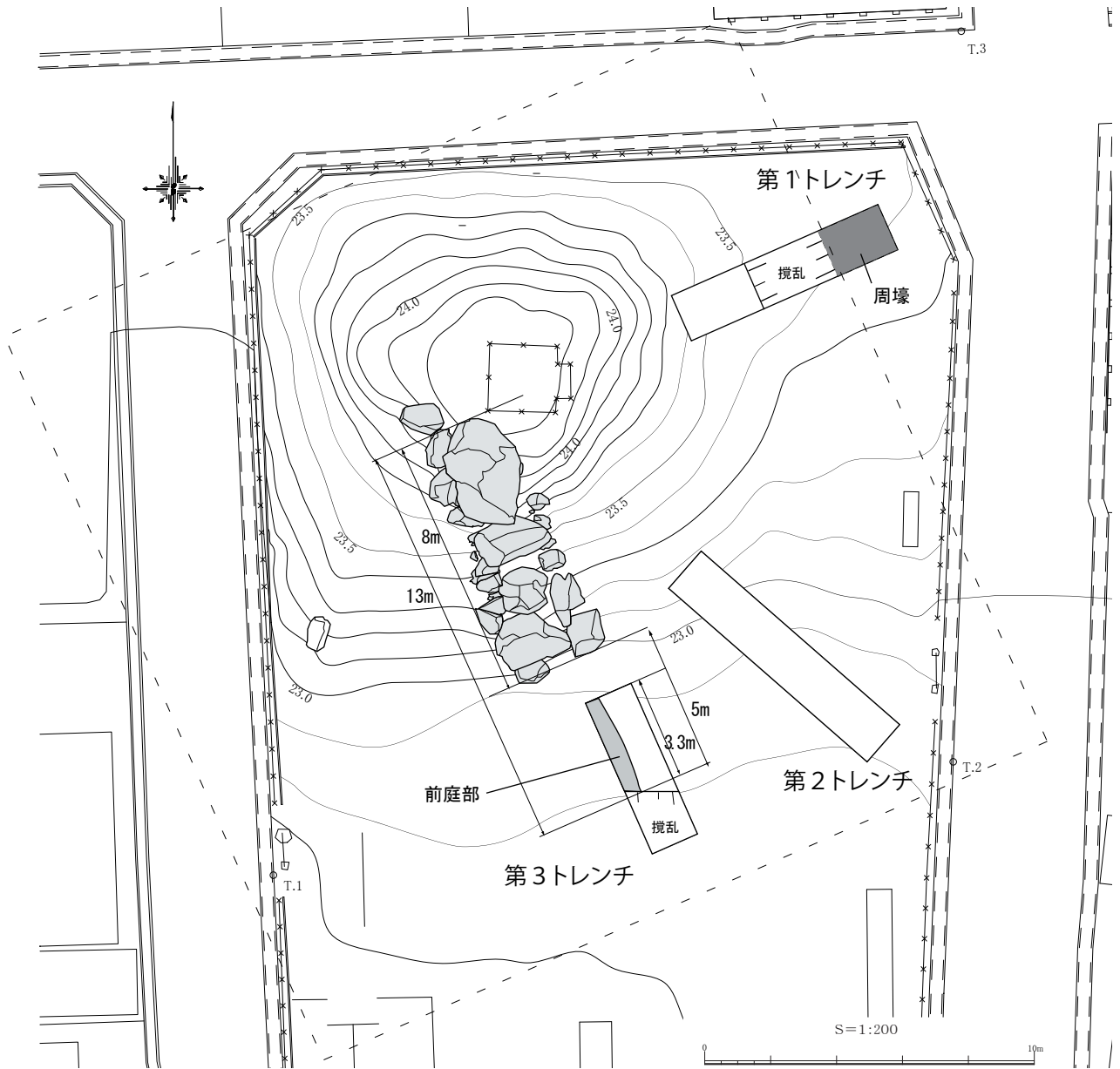
古墳の形については限られた調査区からは決定できませんでした。円形(円墳)もしくは方形(方墳)と考えられますが、周壕の状況等からは④方墳の可能性が考えられます。

今回の調査では出土遺物からは古墳の時期は決定することはできませんでしたが、⑤石室の大きさや形から7世紀の初め頃と考えられ、過去に出土したとされる馬具とも矛盾しないものです。

車塚古墳の周辺には他の古墳もなく、ほぼ同じ時期に金生山周辺に多数築かれた群集墳とは異なる立地です。石室は大きく、前庭部を含めた長さは13mをこえるものです。単独で存在した大型古墳と考えられます。時期的には古墳時代の最終段階に近く、当地域に造られた最後の首長墓の一つである可能性が考えられます。

車塚古墳は住宅地の中の小さな公園に位置する古墳です。露出した石室からその存在は知られていましたが、周壕や前庭部などの遺構も残存していることが新たに判明しました。また、首長墓の可能性もある大型古墳であることもわかってきました。

今後は公園整備を行うと同時に、当地域の歴史を伝える資産として古墳の保護・保全もはかっていく予定です。



車塚古墳調査区の平面図 (1 : 200)

破線は車塚古墳が方形(方墳)であると想定した時の古墳の範囲です。

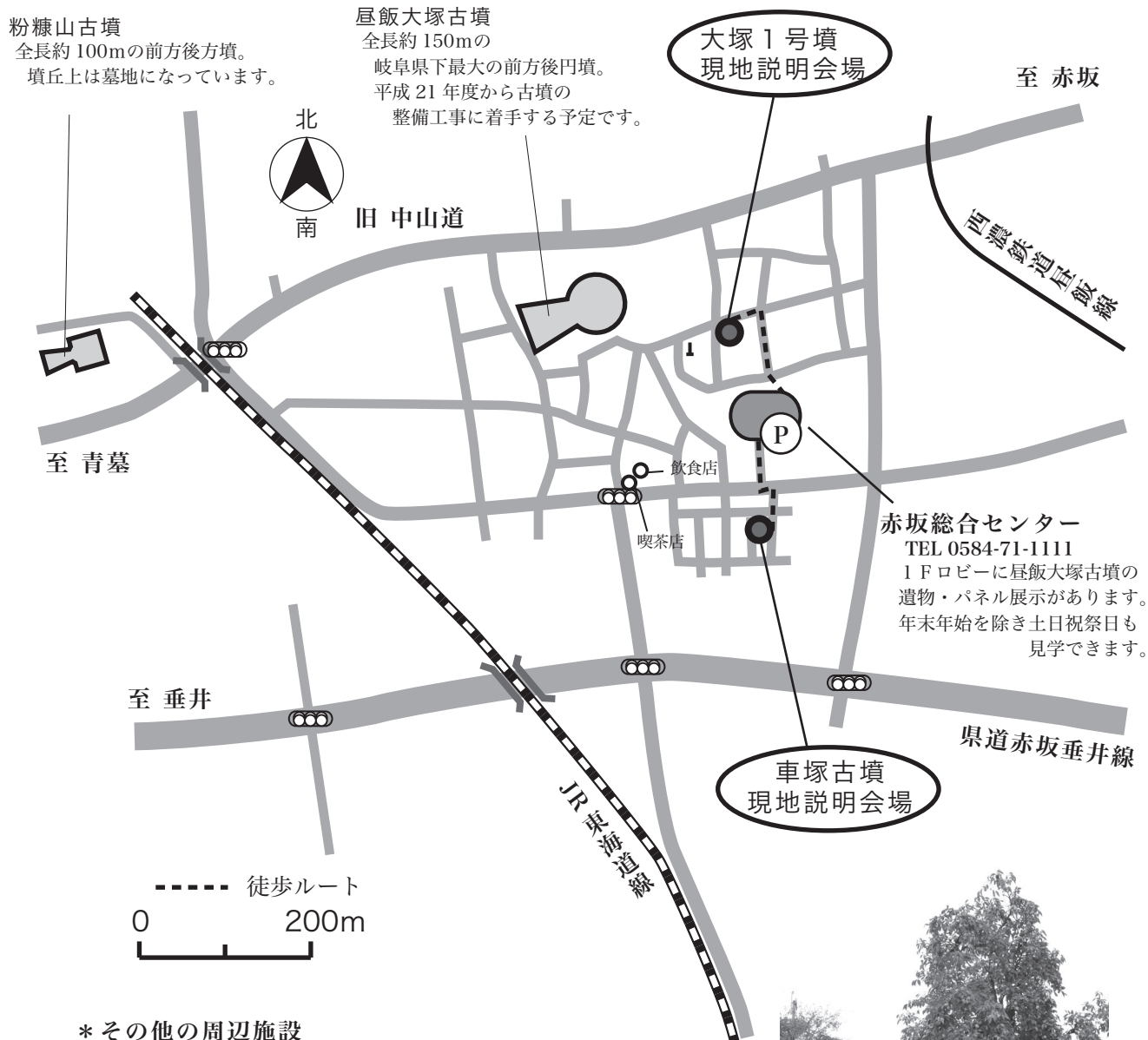


公園内に露出する石室と発掘調査により確認された前庭部の石材

現地説明会 二会場 及び周辺の古墳 案内図

大塚1号墳 (徒歩2分) 赤坂総合センター

赤坂総合センター (徒歩2分) 車塚古墳



* その他の周辺施設

歴史民俗資料館 TEL 0584-91-5447

赤坂総合センターの西約2.5km

史跡美濃国分寺跡と市内の古墳出土品を中心とした展示があります。

